

第5講座

付属語 助動詞・助詞

・付属語とは、ただそれだけでは文節となりえず、常に自立語に付属して用いられる単語です。付属語には、助動詞と助詞とがあります。

助動詞

【助動詞の性質】

体言や用言、または他の助動詞について意味をそえる品詞です。

助動詞は、活用する付属語です。

〈例〉 私は海へ行きたい。 なんときれいな花だろう。

【助動詞の種類】

- ① 受け身・自発・可能・尊敬 — れる・られる
- ② 使役 — せる・させる
- ③ 希望 — たい・たがる
- ④ 断定 — です
- ⑤ 否定(打ち消し) — ない・ぬ
- ⑥ 過去・完了 — た
- ⑦ 推定 — ようだ・らしい
- ⑧ 推量 — う・よう・まい
- ⑨ 意志・勧誘 — う・よう
- ⑩ 伝聞 — そうだ
- ⑪ 様態 — そうだ
- ⑫ たとえ — ようだ
- ⑬ 例示 — ようだ
- ⑭ ていねい — ます

71

次の(1)~(4)の文中の — 線をつけた助動詞の表す意味として適当なものをあとのア~コから選び、記号で答えなさい。

- (1) 弟に品物をとりにやらせる。 ()
- (2) ぼくも今度はがんばろうだ。 ()
- (3) 電車の中で足を踏まれる。 ()
- (4) 何とかして合格したいだ。 ()

- ア 可能 イ 受け身 ウ 使役 エ 伝聞 オ 推定
- カ 希望 キ 意志 ク 完了 ケ 自発 コ 否定

72

次の各組の — 線部のうち、助動詞はどれですか。その記号を○でかこみなさい。

- (1)
 - ア この本はちっともおもしろくない。
 - イ ここには、だれも知らない秘密がある。
 - ウ あの箱の中には、なにもない。
 - エ ひとりでいてもさびしくはない。
- (2)
 - ア わが輩は、ねこである。
 - イ 石で家をつくる。
 - ウ 海はめずらしくおだやかである。
 - エ 東京で、久しぶりに友人に会った。
- (3)
 - ア いかにも春らしいけしきだ。
 - イ 男らしい行いは、人々の信頼のもとだった。
 - ウ もうそろそろ兄が帰ってくるらしい。
 - エ 彼のやり方が憎らしい。

参考

(1)の「ない」は、直前の語との間を文節として切れるかどうか確かめるとよい。切れば形容詞、切れなければ助動詞です。(3)の「らしい」は、形容詞を作る接尾語と助動詞の区別です。

73

次の各文から助動詞を抜き出して()の中に書き入れ、また、その種類をあとのア~コから選び、記号を□の中に書き入れなさい。

- (1) 子供たちに絵をかかせる。 () □
- (2) 東京タワーが見えます。 () □
- (3) 先生は、毎朝早く学校へ来られる。 () □
- (4) 原にホームランを打たれる。 () □
- (5) 今日も雨が降らない。 () □
- (6) 明日は、どうも雨が降るらしい。 () □
- (7) 明日は、雨が降るそうだ。 () □
- (8) 病気の父が案じられる。 () □

- ア 断定 イ 使役 ウ 自発 エ 伝聞 オ 受け身
- カ 推定 キ 否定 ク 尊敬 ケ 過去 コ ていねい

74

次の各文の——線部の語の表す意味として適当なものを、あとのア〜エから選び、記号で答えなさい。

- (1) おじさんは、明朝早く出発される。
- (2) 混雑にまき込まれて、仲間を見失った。
- (3) 故郷の母のことが案じられる。
- (4) 先生がわかりやすく話された。
- (5) 転校した友の顔が思い出される。
- (6) 日の沈まぬうちに峠を越えられるだろうか。
- (7) 危ういところを助けられ、感謝のことばもない。
- (8) それならばくにも答えられる。

ア 受け身 イ 可能 ウ 自発 エ 尊敬

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| (1) () | (2) () | (3) () | (4) () |
| (5) () | (6) () | (7) () | (8) () |

75

次の各文の□の中に、助動詞「ようだ」を活用させて書き入れなさい。また、それが表す意味として適当なものを、あとのア〜ウから選び、記号で答えなさい。

- (1) 彼の□ いつも明るくふるまえたらなあ。()
- (2) 雨が降る□ ば、遠足は中止にします。()
- (3) 鳥の□ 空を飛ぶのが人類の夢だった。()
- (4) 彼のもとには、夢の□ 話が舞いこんだ。()
- (5) 太郎は、父に反感を持った□ た。()
- (6) その□ 話は聞いたことがない。()
- (7) 紙ふぶきは、まるで雪の□ 。（ ）
- (8) まるでありの□ う。()

ア たとえ イ 不確かな断定 ウ 例示

参考

「ようだ」には、次の三つの意味用法があります。

- ① たとえ………似かよったものごとをたとえていう意味を表す。
- ② 不確かな断定………なんらかの根拠にもとづいて推しはかる。
- ③ 例示………例をあげていう意味。

助詞

【助詞の性質】

いろいろなことばについて、その語と他の語との関係を示したり、いろいろな意味をそえる品詞です。

助詞は、活用しない付属語です。

〈例〉 教頭先生が、話をされる。

電車もあれば、バスもタクシーもある。

【助詞の種類】

- ① 格助詞………主として体言に付いて、その文節と他の文節とがどんな関係にあるかを示している。(が・から・で・と………など)
- ② 接続助詞………主として活用する語に付き、もともと一つの文でありうるものを一つの文につなぐ。(が・から・し・たり………など)
- ③ 副助詞………いろいろな語に付いて、ある意味を付け加える。(か・くらい・こそ・さえ………など)
- ④ 終助詞………文や文節の終わりに付いて、話し手・書き手の気持ちを表す。(か・さ・ぞ・とも………など)

76

次のことばの中から、助詞を八つ選び、その記号を○でかこみなさい。

- | | | | | |
|-------|------|-------|-------|-------|
| ア ようだ | イ だけ | ウ まい | エ しか | オ この |
| カ こそ | キ から | ク らしい | ケ そうだ | コ ので |
| サ ながら | シ まで | ス です | セ ます | ソ ばかり |

77

次の各文から助詞を選び、——線をつけなさい。

- (1) 少年たちの不安は強くなってきた。
- (2) 魚は人間ほど高い音を聞くことはできないが、人間に聞こえないような低い音を聞くことができる。
- (3) 土用波という高い波が、風も吹かないのに海岸にうち寄せるころになると、海水浴に来ている都会の人たちも、だんだん別荘をしめて、もどって行くようになります。

78

次の(1)・(2)の文中の——線の語と意味・用法が同じものをあとから選びそれぞれ記号を○でかこみなさい。

(1) 運動会の準備でいそがしい。

ア 彼女の父は、京都で育った。

イ きのは、大雨で帰れなかった。

ウ 仙台まで飛行機で行く。

エ こんなに静かで、空気のいい所は都内にはない。

(2) ひまなら本でも読みなさい。

ア これは、どこでも見られる光景だ。

イ 読んでも読んでも読み終わらない。

ウ 無理でも、やってごらんなさい。

エ そばでも食べようと思った。

79

次の文中で格助詞のついている文節に——線をつけなさい。

(1) 山々のもみじが、きれいな色になった。

(2) 年の暮れも近い、雪の降る晩、福の神がその家を訪れたのを、だれも知りませんでした。

80

次の各文中から接続助詞を書き抜きなさい。

(1) みんなが賛成すれば、すぐ実行します。

(2) どんなにつらくても、彼は続けるだろう。

(3) 時代劇も見たいし、漫画も見たい。

(4) 雨が降ったので、出発は延期された。

81

次の各組の——線の助詞の種類を書きなさい。

ア 弟と散歩する。

イ 聞くとわかる。

ウ 予報では雷雨になるとのことだ。

ア 彼も行くだろうか。

イ どこかへ行ってしまった。

ウ いっしょに行こうか。

82

次の各文中の——線部の文法的説明として適当なものを、あとのア〜ケから選び、記号で答えなさい。

(1) 花子や、こっちへおいで。 (2) どう言われようと平気だ。

(3) 小説家となりました。 (4) 会は十時から始まる。

(5) この機械は古いから、たびたび故障する。

ア 格助詞で、帰着する所を示す。

イ 格助詞で、結果を示す。

ウ 格助詞で、起点を示す。

エ 副助詞で、他を推測させることを示す。

オ 副助詞で、限度を示す。

カ 接続助詞で、理由・原因を示す。

キ 接続助詞で、仮定の逆接の関係を示す。

ク 終助詞で、呼びかけを示す。

ケ 終助詞で、質問の意味を示す。

(1) () (2) () (3) () (4) () (5) ()

83

次の各文の——線「に」は、あとのア〜キのどれを示していますか。それぞれ記号で答えなさい。

(1) 私は、お昼ちょっと前に家を出ました。

(2) あまり強そうでないチームに敗れて、くやしい思いをした。

(3) 私は、与えられた任務に全力を尽くした。

(4) やっと山頂にたどりついた時には、あたりは真っ暗だった。

(5) 彼は努力を重ねて、大統領になった。

(6) 大切な本を電車に忘れてきた。

ア 場所 イ 帰着点 ウ 時間 エ 動作の結果

オ 動作の目的 カ 受け身の相手 キ 使役の相手

(1) () (2) () (3) ()

(4) () (5) () (6) ()

参考 格助詞「に」は、いろいろな意味があるので、しっかり覚えておこう。

実力完成問題

84

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

文章を書くのは難しいと言われるが、私にはそう思えない。なぜなら、それは書こうとするものの細部を一つ一つ取りあげて表せば、できるからだ。

しかし、さらに考えてみればその特徴のある細部を選んで書いた方が、よりすぐれた書き方だろう。特徴とは、それを囲んでいるものの中に見てこそ明らかだ。

問一 — 線(1)・(2)の「の」と使い方が同じ例文を、次のア〜ウよりそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 旅行の計画。
- イ 君が来たの|を知らなかった。
- ウ 香りのよい花。

問二 — 線Aの助動詞が表す意味は、次の各文のどれと同じですか。一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 亡くなった父のおもかげがしのばれる。
- イ リンカーンは世界中の人々に尊敬されています。
- ウ 昨日の事は忘れられないでしょう。
- エ 先生も五時には出席されるはずです。

問三 — 線Bと性質が異なるものを次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ろうかをドタバタ走らないようにしなさい。
- イ 私の家はここからそんなに遠くない。
- ウ 明日の旅行のことを考えると、うれしくて眠れない。
- エ この道は、工事中で通れないようだ。

() ()

問四 — 線C「だろ」と性質が異なるものを次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア あの人が彼のおにいさんだろう。
- イ 頂上からのながめはさぞ雄大だろう。
- ウ 彼は疲れたから休んでいるのだろう。
- エ あの花はとても美しいだろう。

85

次の各文の — 線部の助詞の違いについて説明しなさい。

(例) あの子は、子どもながら感心だ。(接続助詞である。)

(1) ア 今日の遠足は、八王子から出発する。
イ 今日の遠足は、雨が降りそうだから延期する。

(2) ア 天気はよいが、気分がすぐれない。
イ 天気はよくても、気分がすぐれない。

(3) ア 自動車やバスの通行は禁止されています。
イ 夏子や、ちょっと迎えに行っておくれ。

入試漢字演習

⑤

次の各文の — 線部のカタカナを漢字に直しなさい。

〔東京家政大付〕

- (1) 「白ける」ということばを、レンパツする。
- (2) 彼はクシヨウしながら答えた。
- (3) 子供の教育にムチュウになる。
- (4) 現代の社会はあまりに情報カジヨウである。
- (5) あきらめのキヨウチに追いこまれる。

() ()

第9講座

語句の意味と使い方

故事成語

昔あったことがらや、中国の古い書物にある話から生まれた教訓的な意味を持つことばで、むずかしい漢語句のものが多く。

〔例〕 杞憂——無用の心配をすること。

推敲——苦心して文章や詩を練ること。

杜撰——詩歌や文章などに誤りが多いこと。

白眉——同類の中でひとときわ光っていること。

故事成語には、その一つ一つに伝えられる故事（古いできごと）があります。たとえば、右の「白眉」には次のような故事があります。

◎ 中国にすぐれた五人の兄弟がいたが、その中でも長兄の馬良は最もすぐれていて、その眉の中に白い毛があったという。

139

次の故事成語の意味として適当なものをあとのア～クから選び、記号で答えなさい。

- (1) 螢雪の功 (2) 五十歩百歩 (3) 背水の陣
(4) 蛇足 (5) 朝三暮四

ア 失敗すれば滅亡するという決死の覚悟で事にあたること。

イ 何をするにも動作がにぶいこと。

ウ 苦労しながら勉強すること。

エ あっても仕方のない無用なもののこと。

オ 水中で集団の配置をすること。

カ いくらか差はあるが、本質的にはあまり違いはないということ。

キ いつわりを持って人をだますこと。

ク 自分がめんどろをみた者にそむかれること。

- (1) () (2) () (3) ()
(4) () (5) ()

140

次の故事成語の読みを書きなさい。また、その意味として適当なものをあとのア～クから選び、記号で答えなさい。

- (1) 太公望 () (2) 塞翁が馬 ()
(3) 紅一点 () (4) 捲土重来 ()
(5) 登竜門 () (6) 吳越同舟 ()
(7) 一炊の夢 ()

ア 第三者が利益を得ること。

イ 人間の幸・不幸は予測できないものだということ。

ウ 立身出世のための関門。

エ つりをする人。つり好きの人。

オ 多くの男性の中にただひとり女性がまじること。

カ 仲の悪い者同士が行動をとりにすること。

キ 人の一生の栄枯盛衰は、はかないものだということ。

ク 一度負けた者が再び勢いをもり返して攻めること。

141

次にあげる故事から生まれたことばを漢字で書きなさい。

- (1) 楚の項羽の軍が漢軍に囲まれた時に、四方の漢軍の中からふるさとの楚の歌が聞こえてきたので、楚の人民が漢に下ったに違いないと嘆き悲しんだ話。

(2) 楚の国で矛と盾とを売っている者が、自分の矛はなんでも突き通せるし、盾はどんな矛でも防ぐことができるといったので、その矛でその盾を突いたらどうなるかとやりこめられたという話。

(3) 後漢の林宗という人が、かぶっていた頭巾の角が雨で折れ曲がったのを、他の人がまねて、わざわざ頭巾の角を折ってかぶるようになった話。しごと、はまぐりの争いにつけこんだ漁夫が両方をとらえたという話。

- (1) () (2) ()
(3) () (4) ()

参考 よく知られている故事成語です。故事の中に解答が含まれている

場合が多いのでよく読むことが大切です。(1)は、「楚」「四方」「歌」「矛」などが参考になります。

ことわざ

昔から言いならわされていることばで、だれが作ったともなく、人々の口から口へと受けつがれ、今日まで伝え続けられてきたことばです。ことわざには、知識を伝えるもの(暑さ寒さも彼岸まで)などがあります。が、意味の上からは、次のように分類することができます。

① 同じような意味を表すもの

(例) 弘法も筆のあやまり

猿も木から落ちる

急がばまわれ

せいては事を仕損ずる

② 反対の意味を表すもの

(例) 善は急げ

せいては事を仕損ずる

念には念を入れ

石橋をたたいて渡る

長いものには巻かれろ

泣く子と地頭には勝てぬ

あとは野となれ山となれ

立つ鳥あとをにこさず

142

次のことわざの意味に関係の深い語をあとのア〜カから選び、記号で答えなさい。

(1) たなからばたもち (2) 泣き面に蜂はち (3) 月とすっぽん

ア 不運 イ 寛容 ウ 差異

エ 忍耐 オ 好運 カ 親切

(1) () (2) () (3) ()

143

次の意味を表すことわざを、あとのア〜エから選び、記号で答えなさい。

(1) 年とった人は、それだけによい考えを持っている。

(2) きらわれ者のほうが、かえって世の中で勢いがよい。

(3) 物事はとにかくやってみることが大切である。

(4) みかけばかり立派でも、何の役にも立たない人。

ア 案ずるより産むがやすし イ 憎まれっ子世にはばかる

ウ かめの甲より年の功 エ うどの大木

(1) () (2) () (3) () (4) ()

144

次のことわざと反対の意味を表すことわざを、あとのア〜ケから選び、記号で答えなさい。

(1) とびがたかを生む (2) へたの横好き

(3) 立つ鳥あとをにこさず (4) 渡る世間に鬼はない

ア 勝てば官軍

ウ あとは野となれ山となれ

オ のどもと過ぎれば熱さ忘れる カ 旅は道づれ世はなさけ

キ 身から出たさび

ケ うりのつるにはなすびはならぬ

(1) () (2) () (3) () (4) ()

145

次のア〜シのことわざの中から、同じような意味に使われているものを二つずつ選び出し、組を六つ作りなさい。

ア ぬかにくぎ イ あぶはちとらず ウ 口はわざわいのもと

エ 二兎を追うものは一兎をも得ず オ 紺屋くわの白ばかま

カ 馬子にも衣装 キ 医者いしやの不養生 ク 蛙かまの子は蛙

ケ きじも鳴かずばうたれまい コ うりのつるにはなすびはならぬ

サ のれんに腕おし シ 鬼がわらにも化粧

() () () () () ()

() () () () () ()

参考 アは「手ごたえがない」という意味です。オは「他人のために働いて自分自身のことはおろそかになる」という意味です。

146

次の() に、漢数字を一字ずつ書き入れて、ことわざを完成させなさい。

(1) 悪事() 里を走る (2) () の足を踏む

(3) () 事休す (4) 仏の顔も() 度まで

(5) 無くて() くせ (6) () 人寄れば文殊もんじゆの知恵

(7) () 枚舌を使う (8) () 日の長

(9) 人のうわさも() () () 日

慣用句

二つ以上のことがば固定的に結びついて、特定の意味を表すようになったものを慣用句といいます。

慣用句は、全体で一つの単語のようなはたらきをします。

〔例〕 水と油――なじまない

――ちががあかない――はかどらない

人間の体の一部分を表すことばを使った慣用句は、数が多いのでまとめておぼえておくとよい。

〔例〕 手がこむ――物事のしくみがこみいっている。

舌がまわる――よどみなくしゃべる。

目をひく――注意をひきつける。

歯がたたない――相手が強くて対抗できない。

147

次の()の中には、体の一部分にあたる漢字が入ります。適当な漢字を一字ずつ書き入れて慣用句を完成させなさい。

- (1) () であしらう……冷淡にあつかうこと。
- (2) () が広い……つきあいが広く、よく知られていること。
- (3) () が肥える……見分ける力が増すこと。
- (4) () に覚えがある……才能に自信があること。
- (5) あげ () を取る……相手の言いそこないにつけこむこと。

148

次の()に漢字を一字ずつ書き入れて慣用句を完成させなさい。

- (1) () を売る……用事の途中で時間をつぶすこと。
- (2) お () をにがす……その場をいかげんにごまかすこと。
- (3) () にかける……自慢をすること。
- (4) 朝 () まえ……ものがごとが簡単なこと。
- (5) () を焼く……扱いに困ること。
- (6) () にきる……ありがたく思うこと。
- (7) () の車……家のくらしがたいそう苦しいこと。

149

次の各文で慣用句が正しく使われている文を選び、記号で答えなさい。

- ア 他の事に心を奪われて仕事に手にもたえない。
- イ 相手の考えを知ろうと腹をさぐる。
- ウ 彼はいばっていて頭が低い。
- エ 父は息苦しそうに肩で風を切る。
- オ 家を出した兄のうわさをちらっと耳にする。

参考

ウ「頭が低い」、エ「肩で風を切る」、オ「耳にする」です。

150

「目」は、他のことばと結びついてさまざまな意味に使われています。次の(1)～(6)の意味を表す慣用句として適当なものを、あとのア～ケからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) びっくりするほど意外なこと。 (2) 相手に同じ仕返しをすること。
- (3) 賢明(利口)であること。 (4) ひどくて正視できないこと。
- (5) ひどいめにあわせること。 (6) うれしくて笑みをうかべること。

ア 目を奪う イ 目を抜く ウ 目を細める

エ 目を疑う オ 目には目を カ 目も当てられぬ

キ 目を光らす ク 目に物見せる ケ 目から鼻へ抜ける

(1) () (2) () (3) () (4) () (5) () (6) ()

151

次の(1)～(5)のことばを①～⑤のことばと組み合わせ文を作り、その意味をア～オから選びなさい。

- (1) うだつが ① つける ア すぐれた者に一步ゆずる。
- (2) さじを ② 上がらぬ イ 事を実際以上に大げさにいう。
- (3) 一目を ③ 手がでる ウ 立身出世ができない。
- (4) 尾ひれを ④ おく エ だめだとあきらめる。
- (5) のどから ⑤ 投げる オ ほしくてたまらない。

(4) () (1) () (2) () (3) () (5) ()

実力完成問題

152

次のことわざ・故事成語の意味として適当なものをあとのア～オから選び、記号で答えなさい。

- (1) 青は藍より出でて藍より青し
- (2) 石橋を叩いて渡る
- (3) 百聞は一見に如かず
- (4) 板につく
- (5) おびに短したすきに長し

ア 用心の上に用心を重ねること。

イ その地位やしぐさに慣れて不自然でないこと。

ウ 弟子が師よりもすぐれていること。

エ 中途はんばで役に立たないこと。

オ 何度も説明を聞くより、一度見たほうがよくわかること。

- (1) () (2) () (3) () (4) () (5) ()

153

次のことばほどのようなときに使われますか。あとのア～キから適当なものを選び、記号で答えなさい。

(1) 高みの見物

(2) しのぎをけずる

(3) 打てばひびく

(4) 顔にどろをぬる

(5) 朱に交われれば赤くなる

(6) 取りつく島もない

ア 互いに激しく争い合うようなとき。

イ 面目をつぶしてしまうようなとき。

ウ 交際する友人によって、良くもなり悪くもなるとき。

エ 相手が無愛想で近寄ることができないようなとき。

オ 第三者として事のなりゆきを傍観しているとき。

カ 相手を攻撃し、やっつけるようなとき。

キ 敏感に反応があるようなとき。

- (1) () (2) () (3) ()
- (4) () (5) () (6) ()

154

次の慣用語の正しい意味はどれですか。記号を○でかこみなさい。

- (1) 足が出る (ア 線より前に足が出る) イ 逃げた足どりがわかる

ウ 予算をこえる)

(2) えりを正す (ア 姿勢を正してあらたまる) イ えりにのりをつけてのぼす

ウ えりの乱れを直す)

(3) 小首をかしげる (ア ちよっと首をひねって考える) イ 小さい首をまげる

ウ 頭がまがってしまう)

(4) 腹をさぐる (ア おかしくてたまらない) イ 相手の考えを知ろうとする

ウ 覚悟をきめる)

(5) 目がない (ア ひどく好む) イ 目が見えない

ウ 目がくらする)

155

次の各文中の「手」の意味として適当なものを、あとにあげたア～キの中から選び、記号で答えなさい。

(1) 弟はまだ小さいので手がかかる。

(2) 毎日練習をしたので、かなり手があがった。

(3) 手不足のために工場は機械を止めた。

(4) 父は手を広げて、支店まで設けた。

(5) 手を変え品を変えて説得した。

(6) 行く手をさえぎられた。

ア 方向 イ 技術 ウ 世話 エ 種類 オ 手段

カ 範囲 キ 人

入試漢字演習

⑧

〔共立女子〕

次の各文の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

(1) はるかにリロセイゼンとしている。

(2) 深くかつ広い自然認識にトウタツし得た。

(3) どちらかの考え方をコシユしているわけではない。

(4) 今までのジョウシキ()の枠を破ったキミョウ()な考え。

解答

〈MJ-Satellite 国文法〉

第1講座

文の成分

- 1 イ
2 エ
3 ④ ⑤ ⑦ ⑪ ⑬ ⑭ ⑯
4 (1) 涼しい／風が／そよそよと／吹いて／きます。(2) 小さい／子どもたちが／公園で／大ぜい／遊んで／いる。(3) 白い／雲が／山の／向こうに／ぼっかり／浮かんで／いる。(4) 動いて／いる／汽車の／中で／私は／ぼんやり／窓の／外を／見て／いた。(5) 人類の／生活は／自然との／戦いから／始まった。(6) 寒さや／霜が／まるで／剣のように／よだかを／刺しました。(7) おじいさんは／山へ／おばあさんは／川へ／行きました。(8) 庭の／すみの／むしろに／すわって／栄吉は／空を／見つめて／いる。
- 5 (1) 9 (2) 10 (3) 12 (4) 12 (5) 11 (6) 12 (7) 14 (8) 13
6 (1) B (2) A (3) C (4) D
7 (1) B (2) A (3) C
8 (1) 平叙文 (2) 命令文 (3) 疑問文 (4) 感動文 (5) 疑問文 (6) 命令文 (7) 感動文 (8) 疑問文
- 9 (1) 複文 (2) 単文 (3) 単文 (4) 重文 (5) 複文
10 (1) イ (2) ア (3) ウ
11 (1) ウ (2) イ (3) ウ (4) ア (5) イ
12 (1) 春休みは 終わった (2) 声が 響いた (3) 初雪が 降ったらし

い (4) 金魚が 泳ぐ (5) 京子さんは 行った

13 (1) ア (2) イ (3) エ (4) ウ (5) オ (6) カ

14 (1) ウ (2) ア (3) オ (4) イ (5) エ

15 (1) 7 (2) 10 (3) 15 (4) C (5) 道徳は D (6) 本質は

16 (1) 白い 花が きれいに 咲いた (2) 小さい 犬は (3) 小さな

川が 静かに 流れる (4) 涼しい ところで (5) そんな ことは

少しも 言わなかった

17 (1) 山田君は泣きながら、出ていく川畑君を見送った。(2) 村松君

のように遅刻をしてはいけません。遅刻をしない村松君を見習いなさい。(3) 中森さんが、松田さんの妹と遊んでいる。中森さんの妹

と松田さんの妹が遊んでいる。

18 (1) 「日」と修飾・被修飾の関係 (2) 定期券を「取り返さない」と

と修飾・被修飾の関係 たいへんだと「思った」と修飾・被修飾

の関係 (3) わたしは「言った」と主語・述語の関係 必死の「気

持ちで」と修飾・被修飾の関係

入試漢字演習 ①

(1) 著 (2) 充足 (3) 天敵 (4) 飼料 (5) 腐敗

第2講座

自立語(1) 体言

19 イ

20 (1) ここ 彼 (2) そこ 私 (3) それ どこ だれ (4) 君 あちら

(5) これ それ

21 (1) 明日 日曜日 空気 場所 (2) 桜 木 根もと 帽子 中学生

(3) 海辺 若者たち (4) 周囲 一面 雪 (5) 間 経験 知恵 方法

(6) 春 子ども